3. 事業概要

(1) 常　設　展

常設展示室は全体で５室の構成となっている。第１室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第２室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第３室は芥川龍之介コーナー、第４室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第５室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年２回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第１～４室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年４回、一部の資料の入れ替えを行い、第１室の一画にコーナーを設け、期間限定で資料を公開した。また、平成29年１月28日（土）～３月20日（月・祝）の間、全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ―天災地変と文学」として第４室飯田蛇笏・飯田龍太記念室で「関東大震災と俳誌「雲母」」の展示を行った。

以下の資料一覧には、平成28年３月15日（火）～平成29年３月20日（月）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

第1室

期間限定公開

◆春の常設展　3/15（火）～6/5（日）芥川賞作家　李良枝

・「ナビ・タリョン」草稿
・ソウル大学の卒業証書・記念盾
・「富士山」原稿コピー
・「木蓮によせて」韓国語訳 草稿
・愛用の筆筒・文具類
・「由熙」草稿
・第100回芥川賞正賞　懐中時計
・「石の聲」草稿

◆夏の常設展　6/7（火）～8/28（日）与謝野晶子

・「自在観わが倚る岩をおさへたり若き純次も力者の如く」軸装
・与謝野寛・晶子「祝詞」原稿
・与謝野晶子筆　土屋義郎画　帯
・渋谷俊宛書簡　1936（昭和11）年（推定）９月１日
・「序に代へて」原稿
・『みだれ髪』初版本　1901（明治34）年８月　東京新詩社・伊藤文友館
・『白桜集』1942（昭和17）年９月　改造社

◆秋の常設展　8/30（火）～12/4（日）武田泰淳と富士

・司修『富士』挿画原画　エッチング
・『富士』特製愛蔵本　1972（昭和47）年10月　中央公論社
・「海」第１巻第５号　1969（昭和44）年10月
・「海」第８巻第12号　1976（昭和51）年12月　武田泰淳追悼特集
・武田百合子「富士日記序文」原稿
・「小事」原稿
・「勝負」原稿
・「Ｌ恐怖症」原稿
・「魯迅とロマンティシズム」原稿
・「士魂商才」原稿
・武田百合子「日々雑記」原稿

◆冬の常設展　12/6（火）～3/20（月）詩人・米澤順子

・「扉」原稿
・「嬰児」原稿

・「沼の花」原稿
・高村光太郎　米澤理藏宛書簡　1932（昭和７）年７月５日
・米澤順子「生垣の枸杞の枝にわつかに芽くむ春　ゆきすりの人にもほゝえみかけたい春」色紙
・米澤順子画「額のある静物」「秋景」

山梨の文学風土

甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』巻之十五　元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政６年刊

甲府学問所　徽典館

甲府勤番支配宛　徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明３年９月刊
萩原元克「うまひとの」短冊
本居宣長点　辻守瓶「思(おうじ)往事(をおもう)」1789年頃
本居宣長点　辻守瓶「春十首」和歌
本居宣長点　辻守瓶「万葉の集見ずして」

樋口一葉（ひぐち　いちよう）

木村荘八 画「たけくらべ絵巻」控画稿（筆屋）
一葉　古屋家宛書簡　1893（明治26）年５月７日
青海学校修了証書　1882（明治15）年５月
樋口一葉　半井桃水宛書簡　1892（明治25）年秋
馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」軸装
樋口一葉「雪の日」草稿軸装
愛用の筆立て
新五千円札（A000006A番）
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵　短冊ばさみ
写真パネル　母多喜・奈津（７歳頃）・姉ふじ・妹くに　本郷６丁目５番屋敷時代
写真パネル　左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作　薩摩焼絵付皿
写真パネル　萩の舎集合写真
写真パネル　半井桃水
写真パネル　竹内桂舟 画「うもれ木」第７回挿絵
写真パネル　文学界同人
「武蔵野」第１輯〈復刻〉1892（明治25）年３月　今古堂
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉

「文芸倶楽部」第２巻第５号　1896（明治29）年４月
「にごりえ」台本　1962（昭和37）年９月　新橋演舞場
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
写真パネル　一葉女史の碑建碑の日　1922（大正11）年10月15日
馬場孤蝶　編集・校訂『一葉全集』前編　1912（明治45）年５月　博文館

第２室

井伏鱒二（いぶせ　ますじ）

井伏鱒二「はなにあらしのたとへもあるぞさよならだけが人生だ　花発多風雨　人生足別離」軸装
井伏鱒二「はなにあらしのたとへもあるぞさよならだけが人生だ　花発多風雨　人生足別離」軸装　複製
井伏鱒二「あきのおんたけ こゝのつどきに ひとりのぼれば はてなきおもひ」軸装
井伏鱒二「大月の岩殿山」原稿
井伏鱒二「青柳瑞穂と骨董」原稿
井伏鱒二・奥山靉「送状」額装
映画「黒い雨」ポスター・パンフレット
写真パネル　1963年４月16日　栃代川の釣行で　井伏鱒二、山角司、飯田龍太、小林冨司夫　撮影 宅間正一
井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装
井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行き』1941（昭和16）年１月　白林少年館出版部
井伏鱒二「飯田龍太の釣」原稿
井伏鱒二「頓生菩提」原稿
井伏鱒二　野上照代宛書簡　1984（昭和59）年10月18日
井伏鱒二『山椒魚』1976（昭和51）年９月　成瀬書房
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月　新潮社
井伏鱒二『小黒坂の猪』1974（昭和49）年７月　筑摩書房
井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年４月　弥生書房
愛用の釣り竿と魚籠

太宰　治（だざい　おさむ）

写真パネル　中学時代、兄弟たちと
写真パネル　甲府市水門町（現・朝日１丁目）の石原家玄関横で　1939（昭和14）年元旦
写真パネル　銀座のバー・ルパンで　1946（昭和21）年　撮影 林忠彦
写真パネル　三鷹の古本屋にて　撮影 田村茂
写真パネル　陸橋（三鷹電車庫跨線橋）にて 1948（昭和23）年３月 撮影　田村 茂
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」（表面）拓本幅
太宰治文学碑　撰文（裏面）拓本幅
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年４月　砂子屋書房
太宰治『右大臣実朝』1943（昭和18）年９月　錦城出版社
太宰治「陰火」原稿　複製
太宰治「斜陽」草稿　複製
太宰治『晩年』1936（昭和11）年６月　砂子屋書房
太宰治　浅見淵宛葉書　1936（昭和11）年６月４日消印
太宰治　浅見淵宛葉書　1940（昭和15）年６月21日消印〈複製〉
太宰治『人間失格』1948（昭和23）年７月　筑摩書房
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1939（昭和14）年１月24日
太宰治　浅見淵宛書簡　1935（昭和10）年11月22日消印〈複製〉
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1938（昭和13）年10月25日〈複製〉
太宰治　高田英之助宛葉書　1939（昭和14）年１月11日消印
太宰治　高田英之助宛書簡　1939（昭和14）年１月11日消印〈複製〉

檀　一雄（だん　かずお）

檀一雄「自画像」額装
映画「火宅の人」ポスター・パンフレット　1986（昭和61）年　東映
愛用のワインボトルの籠
檀一雄「太郎生後九十四日」額〈複製〉
写真パネル　能古島の草庵「月壺洞」にて　1975（昭和50）年
檀一雄「旅立ち」原稿〈複製〉
檀一雄「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙
玉井徳太郎 画『少年猿飛佐助』挿絵原画
檀一雄「娘達への手紙」原稿
檀一雄　中国でのスケッチブック
映画「火宅の人」ポスター　1986（昭和61）年　東映
玉井徳太郎 画『少年猿飛佐助』挿絵原画
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年４月　作品社
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第１章）原稿〈複製〉
檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年６月　新潮社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年９月　新潮社

山本周五郎（やまもと　しゅうごろう）

映画「赤ひげ」パンフレット　1965（昭和40）年　東宝
映画「五瓣の椿」ポスター　1964（昭和39）年　松竹
写真パネル　秋山青磁 撮影　映画館
写真パネル　秋山青磁 撮影　書斎　間門園にて
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年２月　文藝春秋新社
山本周五郎『さぶ』1963（昭和38）年８月　新潮社
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年３月　八雲書店
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿　複製
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年２月　朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974（昭和49）年８月　実業之日本社
山本周五郎　初期習作草稿　複製
映画「どですかでん」ポスター　1970（昭和45）年　東宝
山本周五郎「季節のない街」新聞切り抜き
山本周五郎「おごそかな渇き」原稿
山本周五郎「多忙」原稿

深沢七郎（ふかさわ　しちろう）

映画「楢山節考」ポスター　1983年
写真パネル　夢屋にて　撮影 佐藤真樹
深沢七郎「楢山節考」原稿〈複製〉
「中央公論」第71年第12号　1956（昭和31）年11月
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年２月　中央公論社
『楢山節考』出版記念会次第
映画「楢山節考」プログラム　1958（昭和33）年４月　映画タイムス社
深沢七郎「笛吹川」草稿〈複製〉
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年４月　中央公論社
写真1976（昭和51）年４月６日　甲府市の割烹旅館・甲運亭にて
深沢七郎　川久保正郎宛葉書　1960（昭和35）年４月２日
深沢七郎　川久保正郎宛葉書　1957（昭和32）年10月31日

映画「笛吹川」パンフレット
深沢七郎　川久保正郎宛葉書　1960（昭和35）年４月２日
深沢七郎「楢山節考」草稿

山崎方代（やまざき　ほうだい）

写真パネル　湯川晃敏氏撮影
山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛りなり」額装
山崎方代「丸出しの甲州弁で申します花は死であり死も花である」額装
山崎方代「一ひらのさくらの花が流れ来て黒き机の上にとまれり」短冊
山崎方代「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられてあが帰る村」色紙
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日が闌けてゆく」色紙
山崎方代「榧の木は苗のうちより名木のそしりを受けて伸びてゆくなり」色紙
山崎方代「不二が笑つてゐる石が笑つてゐる笛吹川がつぶやいてゐる」軸
山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」軸
山崎方代「まつ黒くすみたる馬の目の中に釜無川が流れている」短冊
山崎方代「しのゝめの下界に降りて来たる時石の笑いを耳にはさみぬ」短冊
山崎方代「つむがりの白い小さき耳なりき沖には月が登りつつあり」短冊
山崎方代「ほゝずきの花が咲いているほゝずきの花は母である」一枚物
山崎方代「茶の花の咲ける小径をらんらららん少女が一人今降りて来る」軸装
山崎方代「泣くほかに支えしものが無いゆえにぬば玉の夜をこめて泣きたり」軸装
山崎方代「フランソワ・ヴィヨンの詩鈔をふところに一ツ木町を追われゆくなり」色紙
方代旧蔵『ヴィヨン詩鈔』〈複製〉
山崎方代「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」短冊
山崎方代「なんじゃもんじゃの木」草稿
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にありし時父もよいたり吾もよいにき」軸装
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日は闌けてゆく」軸装
山崎方代「冬の陽が遠く落ちゆく橋の上ひとり方代は瞳をしばだたく」短冊
山崎方代「ある朝の出来ごとでしたこおろぎがあがかけ茶碗とび越えゆけり」扇面色紙
山崎方代「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊
方代愛用の品　拡大鏡　眼鏡　万年筆　茶碗
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月　山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月　短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月　短歌新聞社
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月　不識書院

中村星湖（なかむら　せいこ）

中村星湖「少年行」原稿
中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
「早稲田文学」第18号　1907（明治40）年５月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇　1915（大正４）年10月　植竹書院
田山花袋　中村星湖宛書簡　1909（明治42）年12月９日
鈴木三重吉　中村星湖宛書簡　1929（昭和４）年９月７日
柳田国男　中村星湖宛書簡　1943（昭和18）年８月30日
正宗白鳥　中村星湖宛書簡　年月日不明
中村星湖「島村抱月の話」原稿

前田　晁（まえだ　あきら）

三木露風　前田木城宛書簡　1909（明治42）年２月４日
島崎藤村　前田晁宛葉書　1913（大正２）年９月３日

国木田独歩　前田木城宛書簡　年月不明15日
前田晁「金壱円の原稿料―二葉亭主人のこと―」原稿
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
前田晁『明治大正の文学人』1942（昭和17）４月　砂子屋書房

三井甲之（みつい　こうし）

三井甲之「古事記論」原稿
三井甲之「友の悲しみ」草稿
三井甲之「街頭独語」草稿
三井甲之「友に 海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」短冊
三井甲之「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊
三井甲之「自然ノ威力ニ死スルワレモマタ自然ナリ」短冊
伊藤左千夫　三井甲之宛書簡　1905（明治38）年（推定）11月21日
三井甲之愛用の品　筆立て
「アカネ」創刊号表紙原案　1908（明治41）年２月〈複製〉
三井甲之『短歌概論』1930（昭和5）年10月　しきしまのみち会
「アカネ」第２巻第４号　1909（明治42）年５月

中里介山（なかざと　かいざん）

中里介山　後閑林平宛葉書　1923（大正12）年１月１日
中里介山　後閑林平宛葉書　1922（大正11）年９月３日
安岡章太郎「果てもない道中記」第２回原稿
木村荘八画「大菩薩地図」
中里介山「大菩薩峠　流転の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠　白骨の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山『大菩薩峠』1918（大正７）年11月　玉流堂
「大菩薩峠」新国劇パンフレット
「大菩薩峠」完結編台本
「隣人之友」通巻84号　1933（昭和８）年12月

伊藤左千夫（いとう　さちお）と山梨の歌人たち

伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1905（明治38）年７月２日
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年１月12日
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年９月22日
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1911（明治44）年12月11日
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1912（明治45）年２月14日
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1912（明治45）年２月15日
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
岡千里「見てあれは地上にひたと落椿花われわれに玉のおと絶ゆ」短冊
岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
岡千里「落つばき真赤なりけりひたひたと今も落ちつゝ真赤なりけり」短冊
岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊
神奈桃村　岡千里宛葉書　年不詳３月10日
神奈桃村　新免一五坊宛葉書　年月日不明
神奈桃村日記　第２号　1916（大正５）年10月15日～1922年２月28日
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいたし芽あるとなしを選りわけるかも」短冊
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊

日原無限歌稿
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂ふ初冬の風」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
諸家寄せ書き
「馬酔木」第３巻第２号　1906（明治39）年２月
「アラヽギ」第２巻第１号　1909（明治42）年９月

秋山秋紅蓼（あきやま　しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「梅」句稿
秋山秋紅蓼「ぶどうの房」句稿
秋山秋紅蓼「蓮」句稿
秋山秋紅蓼「番町屋敷町」句稿
秋山秋紅蓼画「葡萄」素描
秋山秋紅蓼画「木蓮」素描
増穂南中学校校歌パンフレット
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年１月　沙羅書店

田中冬二（たなか　ふゆじ）

田中冬二「昔のふるさとの家」草稿
田中冬二「初心忘るべからず」草稿
田中冬二「憂愁をのこして夏の日は過ぎたが」草稿１
田中冬二「春」一枚物
田中冬二「本栖村」色紙
田中冬二「冬日落暮」色紙
田中冬二「養父と言う駅の名さびし桑の酒」短冊
田中冬二「柿の葉かげし水冷やか鮓をおす」短冊
田中冬二『青い夜道』1929（昭和４）年12月 第一書房
田中冬二「奈良田にて」色紙　複製

木々高太郎（きぎ　たかたろう）

木々高太郎「美の悲劇」原稿〈複製〉
木々高太郎「書くということ」原稿
木々高太郎「少年時代によんだ本」原稿
木々高太郎「初志」原稿
海野十三　木々高太郎宛書簡　1935（昭和10）年（推定）月不明19日
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年３月　世界社
「シュピオ」第３巻第５号　1937（昭和12）年６月

小尾十三（おび　じゅうぞう）

小尾十三「青き大麦畠にて」原稿
小尾十三「燈火」原稿
小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉
俳句・短歌メモ
芥川賞記念品の腕時計
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年２月　満洲文藝春秋社
「文藝春秋」第22巻第12号　1944（昭和19）年12月

村岡花子（むらおか　はなこ）

村岡花子「クリスマスのおもいで」原稿
村岡花子「弁天池―K夫人のことども―」原稿
村岡花子「故阿部眞之助さんのこと」原稿
村岡花子　前田晁宛葉書　1926（大正15）年10月22日
村岡花子『赤毛のアン』第３章翻訳原稿〈複製〉
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』複製
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年５月　三笠書房
村岡花子『随筆集　心の饗宴』1941（昭和16）年４月　時代社

徳永寿美子（とくなが　すみこ）

徳永寿美子「あしたはクリスマス」草稿
徳永寿美子「いまの小学生たちを見ますと…」草稿
徳永寿美子「春の歌」草稿
徳永寿美子「シギトハマグリ」草稿
徳永寿美子「甲斐のくに七里が岩のいわつつじあやに咲きけんう月のまひる」短冊
徳永寿美子「小公子」原稿　複製
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年２月　アルス〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年５月　広島図書
「母」第６年第８号　1920（大正９）年８月〈複製〉原本　成蹊学園学園史料室蔵

八木義徳（やぎ　よしのり）

八木義徳「きげんのいい男」原稿
八木義徳「胡桃」原稿
八木義徳「よく使われている。…」原稿
八木義徳「清原康正氏の『中山義秀の生涯という本…』」草稿
八木義徳「文章は血と土とそして海の風から生れる」色紙
「満洲観光聯盟報」第５巻第６号　1941（昭和16）年６月
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年３月　世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年８月　河出書房新社
『八木義徳全集』第４巻　1990（平成２）年６月　福武書店　妻正子に宛てた献辞入

武田泰淳（たけだ　たいじゅん）

武田泰淳「聖女侠女」原稿
武田泰淳「魯迅とロマンティシズム」原稿
司修『富士』挿絵エッチング
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月　中央公論社
「海」第１巻第５号　1969（昭和44）年10月
「海」第８巻第12号　1976（昭和51）年12月　武田泰淳追悼特集
「ひかりごけ」映画パンフレット
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月　講談社

李良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「私の『ゲーテとの対話』」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年２月　講談社
ソウル大学卒業証書

芥川賞正賞の記念品
愛用の筆筒、文具類

辻　邦生（つじ　くにお）

辻邦生「含羞のエロス」原稿
辻邦生　村松定史宛書簡　1981（昭和56）年８月17日消印
辻邦生　村松定史宛書簡　1982（昭和57）年３月28日
辻邦生　高室陽二郎宛書簡　1989（平成元）年11月４日
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年９月　新潮社
「海」創刊特大号　1969（昭和44）年７月
「新潮」1982（昭和57）年２月

第3室　芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

芥川龍之介「魔法島」原稿
伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット　1904（明治37）年11月　耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正５）年２月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号　1916（大正５）年２月
夏目漱石『社会と自分』1915（大正４）年11月　実業之日本社
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正８）年１月　新潮社
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年５月　金星堂
芥川龍之介『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」巻子〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全５巻　1925（大正14）年11月　興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和２）年６月　文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和２）年４月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和２）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介「亀」素描
芥川龍之介　石川寅吉宛書簡額装　1924（大正13）年３月８日
芥川龍之介　小穴隆一宛書簡軸装　1922（大正11）年７月９日
小穴隆一装幀『黄雀風』表紙校正刷り

【芥川の俳句】

芥川龍之介「Impromptu」俳句草稿
芥川龍之介「札白し牡丹畑の夕あかり」ほか俳句草稿

芥川龍之介「日もすがら海鳴る音や麦の秋」ほか俳句草稿
芥川龍之介「春雨や霜に焦げたる杉ながら」ほか俳句草稿
芥川龍之介「花火より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「人相書に曰く蝙蝠の入墨あり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「蝙蝠や灯入りの月に人ふたり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「舟牢にからむ藻草や蚊食鳥」ほか俳句草稿
芥川龍之介「いく秋をふる盃や酒のいろ」ほか俳句草稿
芥川龍之介「雁啼くや芥火燃ゆる裏河原」「仇めきたる暮露のものごし」ほか連句草稿
芥川龍之介「巻煙草けむりの垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「紙巻の煙の垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介　谷崎潤一郎宛書簡軸装　1922（大正11）年（推定）６月４日
芥川龍之介「山もとの夜長を笠のゆくへかな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「土雛や鼻の先から日の暮るる」俳句草稿
芥川龍之介「町かどや入り日片照るひと茂り」俳句草稿
芥川龍之介「木がらしの海吹き凪げるたまゆらや」ほか俳句草稿
芥川龍之介「盆梅の枝にかかるや梅のひげ」俳句草稿
芥川龍之介「野茨にからまる萩のさかりかな」色紙
「ホトトギス」1918（大正７）年９月
「ホトトギス」1919（大正８）年３月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月　新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和２）年９月号
『澄江堂句集』1927（昭和２）年12月　文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅〈複製〉
芥川龍之介「水虎晩帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介　山本喜誉司宛書簡　1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介　山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正６）年５月　阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正７）年７月　春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介　井川恭宛書簡　1914（大正３）年１月21日〈複製〉
原本　大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1918（大正７）年８月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号　1918（大正７）年７月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和３）年６月　改造社〈復刻〉

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」